

Sukhavativyūha の藏譯による

一考察

朝 山 幸 彦

「極樂淨土」觀念のチベット變容については既に種々論究されてきている。しかしこの問題の解明のためには、基礎的作業として藏譯淨土經典の適確な讀解が必須である事は言うまでもない。本論ではその一端として、Sukhavativyūha (以下 S. V. と略す) 藏譯に用いられている *lta-bu* の語を取り上げ、その意味及び用法を吟味して、適確な讀解への一助としたい。(尙、梵本は Oxford 本、藏譯はデルグ版東北目録 No. 49 漢譯は唐菩提流志譯大正十一卷)

S. V. に於いて *lta-bu* は *upama-kalpa*, *tadyathā*, *yathariva*, *yathā*, *sadśśa* の梵語に對應し、譬喩、類似、例示等を意味する。更に複合的な用法として、*lta-bur ston-pa* があり、*nidarśana* に對應して、*showing* を意味する。

この外、對應梵語がなく、藏譯が特に付加した *lta-bu* が十二例見られ、その對應梵文は何れも Compound であることが特色をもつ。(この部分がチベットの變容をなした可能性を含む。依つてこれらが當面の課題である。) この十二例は *lta-bu* の用法の形式から二種に分類できる。即ち (A) 「*Alta-bu B*」又は「*B+Alta-bu*」の形式で *B* に相當する語がないものと (B) 「*Alta-bu*」の形式で *B* に相當する語がないものとである。

Sukhavativyūha の藏譯による一考察 (朝 山)

(1) この形式のものは十例ある。

1) *byan-chub-kyi śin ni*……*rgyan sna-tshogs kyi bya-pa zla-ba lta-bur snan-bahi nor-bu rin-po-ches yoh-su gsal-ba* (fol. 260. b)

bodhiṃkṣāḥ……*śaṃkṣācandrahāsamāniratnapari-sphutah* (p. 54, 14) (藏文和譯「菩提樹は……種々の飾にちて飾られ、月の如くに輝ける寶珠により明かとなり。」この用例では藏譯 *zla-ba lta-bur snan-bahi* は *Candra-bhāsa* に對應する。 *lta-bur* は *zla-ba* に加えられ、現在分詞の「輝ける」状態を「月」でなぞらえるという働きをなしている。この *lta-bur* が譬喩を示している事は明らかである。以上の事は、藏譯が *Candra-bhāsa* を持業釋に讀解している事を示すものである。しかしこの梵文も又持業釋に解せ藏譯のやうに譬喩に讀む事は可能である。

2) *ñig-ten-gyi khams bde-ba-can na*……*sa chen-po ni gser-gyi kha-dog lta-bu ste ḥams dgaḥ baḥoḥatra buddhakṣetre*……*suvarṇavarṇa ca mahāpṛthivi ramaṇīyā* (p. 94, 1. 9) (藏文和譯)「極樂世界は……大地は金色の心である。」

3) *rin-po-cheḥi śin-ljon-pa te-dag ni kha-dog tha-dad-pa / kha-dog du-ma-pa*……*te-na rin-po-cheḥi śin-ljon-pa gser-gyi kha-dog lta-bu dan / gser-gyi ran-bzin-can dag yod-do / dñul* (fol. 253 b)

te……*raṇavṛkṣā nānāvarṇa*……*/santi tatra ratnavṛkṣā su-varṇavarṇāḥ suvarṇamayāḥ/rūpya*…… ((p. 33, 1. 8) (藏文和譯)「ここでは寶樹は種々の色があり、多くの色を有しなれ、……」

一四七

には金色をした、金を本性としている諸々の寶樹がある。銀……」この用例は *lta-bu* の意味を考える上での注目すべきであろう。即ち藏譯では淨土の寶樹が金を本性としている (*ran-bzjin-can*) と考えており、色に關しては *kha-dog du-ma* (多くの色の) に《pa》を加えて *kha-dog du-ma-pa* として明確に多くの色そのものを所有していると考えた事が知られる。

以上の様な内容を背景として、兩藏譯の *gser-kyi kha-dog lta-bu* は *svavarṇavarṇa* (h) に對應する。¹⁾ の *lta-bu* は名詞 *kha-dog* に加えられ、寶樹(大地)を修飾する形容句を構成している。この梵文 Compound たる *svavarṇa-varṇa* (h) は寶樹(大地)にかかる有財釋に讀解すべき事は明らかであるが、この *lta-bu* はその有財釋に對應している。これを前述の藏譯の内容と合わせ考えると、*lta-bu* は有財釋を示し、所有を意味しているといえよう。この解釋は S. V. の藏譯と同じ舊譯に屬する「金光明經」の *lta-bu* の用例によつて支持される。²⁾ 《gser-kyi kha-dog lta-buñi snan-ba: svavarṇamayā avabhasāḥ (Lokas Chandras Dic. p. 660)》に於いて *lta-buñi ṅa mayā= を意味する事を示している。³⁾ 又 Chandra Das ṭṭ *kha-dog lta-bu ṅa like colour* の外、⁴⁾ in colour と英譯している。⁵⁾ 更に河口慧海氏によると《snan-po lta-bur ston-pa》を「青のままに現われ」と和譯している。以上 *lta-bu* は少なくとも色を示す場合には色「そのもの」を示す事があると考えられる。従つて梵藏間の意味の相違がこれらの用例に於いては特になくと云えよう。又菩薩地威力品にも同じ用例が見られ、*lta-bu* は有財釋を示している。⁶⁾ 《us-la ḥod-zer sna-tshogs shon-pa dan/……śel-gyi kha-dog lta-bu ḥbyun-ba=ho (東北目録 No. 4037, fol. 32b):*

vividha arcisah kāyān nirgacchanti nīla……sphatikavarṇaḥ (U. Wogihara: Bodhisattva-Bhūmi p. 59)》

(可) の形式のものに二例ある。

- 1) *byan-chub-kyi śin ni……gyun-druñ ḥkhrīb-pa dan/ zla-gam lta-bus legs-par brgya-pa* (fol. 261 a) *bodhivṛkṣaḥ……nandīvartacandra-samalamkṛtaḥ* (p. 54, l. 13) (藏文和譯)「菩提樹は……卷萬字と半月の如き形で莊嚴され……」この用例では藏譯 *zla-gam lta-bu* (s) が梵語 *Candra-* に當る。⁷⁾ *Candra* は菩提樹の飾りであつて英譯では a spot similar to the moon と云われる。この場合の *lta-bu* は *zla-gam* (半月) に加えられ「*lta-bu*」の形式を作っている。そして表現されていない B に當るものを含意していると考えられる。それが、「飾り」としての半月でなぞえられた「形」である事は萬字や卷萬字等の形を表わす名詞と併記されている事からも明らかである。従つて *zla-gam lta-bu* (s) は形を示す譬喩的表現であり、全體として名詞的に解すべきものである。この場合 *lta-bu* は英譯で云ふなら *a spot similar (to) ṅa* なり、「……の如き形」と和譯される。因に Chandra Das ṭṭ *lta-bu* が名詞 *gṛugs-brñan* と同義語に *likeness, reflected image* を意味する⁸⁾ 云々。唐譯は「半月寶」とあり、實が附加されている。實の意味は梵文に求め得ないが、藏譯が梵文の意味を汲んで *lta-bu* (s) を付加した讀み方と軌を一にしている。それは *lta-bu* を名詞的に解す事も支持する。
- 2) *chu-zla-lta-bu ṣes-bya-ba dan* (fol. 240 b) *udakacandro nāna* (p. 6, l. 1) (藏文和譯)「水月の如き映像と名づくる(如來)へ」⁹⁾ 藏譯 *chu-zla lta-bu ṅa* *Udaka-candra* に對應する事は云々である。この場合の *lta-bu ṅa chu-zla* (水月) に加えられ、前述

の例に見られたようにBに當るもの、即ち「映像」を表現しようとしている。

因に英譯による *chu-zia* だけ *the image of the moon in the water* として映像の意味をもつてゐると云う。従つて *chu-zia* *Ita-bu* は映像を示す譬喩的表現であり、如來の名として名詞的に解すべきものである。この場合 *Ita-bu* が英譯では *the image (of)* となり「……の如き映像」と和譯できぬ。(Das が *Ita-bu* を *reflected image* としたのは前述した) 梵語 *udaka-candra* はしばしば *upa-ma* を伴つて譬喩に用いられるが、この用例では如來名であつて、譬喩ではない事明らかである。しかし映像としての「水に映つた月」の意味は變らない。宇井博士は *udakacandra* を「水に映つた月影」と譯している。従つて梵文の映像の意味を藏譯では *Ita-bu* を付加する事によつて、梵文と同じ意味にしたと云えよう。唐譯は「水月光」と光を付加している。これは藏譯と同じ讀み方を示している。

以上により次の事が云える。(1)「*Alta-bu B*」等の形式で用いられる *Ita-bu* は對應梵文の持業釋、有財釋を示し、その限りで譬喩、所有を意味する。(2)「*Alta-bu*」の形式での *Ita-bu* は譬喩的表現を示すが、對應梵文の「意味を譯出」しており、「……の如きもの」と名詞的に解すべきである。故に *Ita-bu* の付加を通して藏譯の意味の變容を論ずる事には難點があると云える。

1 中村元博士、印佛研十の二 p. 137, p. 145 ~ 東洋人の思惟方法第四 p. 105 ~

2 他に二例あり、一つは梵文、一つは梵語省略、故に略す

3 梵文の原意を解せず、譬喩にした用例一つあり、略す

Sukhāvativyūha の藏譯による一考察(朝山)

- 4 河口氏梵藏和英合璧淨土三部經 p. 344, l. 16
- 5 河口氏同本 *dum* デルゲ、北京兩版 *du-ma-pa*
- 6 以下の例は略
- 7 天野氏印佛研八の二 p. 138 ~
- 8 河口氏前掲本 p. 345
- 9 大正十一卷 p. 96 中
- 10 菩薩地索引 p. 378
- 11 大正十一卷 p. 92 下
- 12 *bzin. liar* にも譬喩以外の用法あり。

新刊紹介(四)

「大正新脩大藏經 索引」

大谷大學編	第16卷	毘曇部下	三、六四頁
龍谷大學編	第5卷	華嚴部	五、七二頁
大正大學編	第3卷	般若部	四、〇〇頁
駒澤大學編	第13卷	釋經論部 中觀部	四、〇〇頁
近刊			
大谷大學編	第6卷	寶積部	五、五八頁
龍谷大學編	第18卷	論集部	三、七一頁
四六倍判 大正新脩大藏經刊行會刊			四、〇〇頁